

國府理の饒舌

鞍田 崇 (明治大学理工学部准教授)

2011/10/21 14:28 國府理

ご無沙汰しております。現在造形大で関わっているプロジェクトのことでご相談したいことがあるのですが、極めて慎重に進めなければいけないテーマにもかかわらず、若干オカルト的あるいはファンタジックな要素も入っていてかなり困っています。それは、除染のために良い雲を作るCloud Tank Projectというもので、現時点では乳酸菌を噴霧するという方向で実証実験に取り組んでいますが、なかなか結果が出せません(そりゃそうでしょ。と言われそうですが)。そこで、領域横断的な活動をされている鞍田さんのことが頭に浮かびました。このプロジェクトにはヤノベさんと銅金裕司さんが関わっていますが実制作の指揮は現在私が行なっています。何か良いお知恵を拝借できればと思うのですが、お時間いただけますでしょうか？

2011/10/21 14:56 鞍田崇

興味深いお話ですね。お役にたてるかどうかは心もとないですけども、ぜひお話お聞かせください。

2011/10/21 16:58 國府理

お忙しいところ早速のお返事ありがとうございます。乳酸菌あるいは乳酸菌を含むEM菌(これも怪しい話ですが)が光合成細菌の活動を促して生体内元素転換をおこなうという話、あるいは植物がセシウムを吸い上げることを助長するといういろいろな説を伴って、汚染地域においてそれを実行する人々がいます。実際に線量が下がったという話をネット上で確認することができるのですが、もちろん科学的な根拠は示されていないので、それを「信じる」か否かという新興宗教のような事態になっています。私も懐疑的ではあるのですが、「科学的な視点から言ってそれはありえない」と科学者から言われてそれを鵜呑みにしたくない気持ちもあります。そんな姿勢では何の発明発見もないでしょうし、実際にこの状況を作り出したのが科学者の「常識」によるものだと思えるからです。また、私自身は人間が振り撒いた放射性物質は、それを地道に取り除くことを「業」として考えて、長い時間をかけてでも表土を剥ぎ取って濃縮し、それを未来永劫背負っていかなければならないと思っていますが、一方でそんな人間の愚かしい行いを細菌や植物が易々と越えて生き延びていくのではないか、そして人間はその営みにすぎるしかないのではないか、という期待もどこかで持っています。(まるでナウシカですね。) 現在、家庭用レベ

ルのガイガーカウンターとトリウム入りタングステン溶接棒という線源を使って実験していますが、ほとんど誤差範囲というか数字が有意といえるほどの方向で安定しないので、この組み合わせに限界を感じているところです。こんな曖昧模糊としたお話に興味を示してくださるような科学者の方をご存知ないでしょうか。近々、汚染地域内のヤノベさんに関係がある美術館などの施設などでの実証実験を行なう予定ではありますが、なんとかそれ以前に研究室レベルでのデータを持って現地の人に示したいと考えています。何卒よろしくお願い致します。長文失礼致しました。

このときのやりとりはここで終わった。

考えると、彼から何かを求めてきたのはこの時だけだった。ただ一度差し伸べられた彼の言葉の洪水に、僕は何も返すことができなかった。

亡くなった者はもう語ることはない。残った者たちは、わずかな言葉の痕跡を繰り返し反芻する。それが世の常といえればそれまでだが、一度っきりのすれ違いがもはや更新されることがないという事実はいまの僕にはとてつもなく重い。

すべて後日譚だ。

國府理にトークの話し手の依頼をしたというと、周囲から意外がられた。彼は人前で話すことが得意でない。多くのアーティストがそうであるように、いやそれ以上に端的に口下手で言葉数も少ない。それが理由だった。トークは、上に引用したやり取りの翌年、2012年の初夏、僕が講師を務めていた京都精華大学建築学科の公開講座シリーズの一環。國府君には、ゲストとして「風を想像する」をテーマに自身の創作活動について語ってもらい、その後対話形式のトークをおこなった。たしかにトークはさほど盛り上がりなかった。

思えば、彼との間にはいつも言葉というか、語ることと語りえないこと、そのはざままで揺れ動く悶着があった。自らをどう語るか。そう考えた途端、圧倒的な非力に直面せざるを得ない者どうしのやるせなさ。はじめての出会いが「失語の叫び」と題されたイベントだったのも、いまから思うと、なんだか象徴的な気がする。